

市立釧路総合病院 看護新聞 第4号



2023年2月発行

看護部労務担当



転職した看護師～やっぱり看護師って素晴らしい～

看護師はチーム医療の一員



私は看護師になる前に幾つかの仕事を経験しました。その中から看護職を選んだのは、幼少期看護師が優しく接してくれた、ナースマンというドラマを見て憧れたから・・・などの理由ではありませんでした。医療事務員として市立釧路総合病院で勤務した際に、経験豊富な看護師が中心となり看護師以外の多職種と連携し業務にあたる様子を目の当たりにし自分もその中で働いてみたいと思ったのが契機でした。目標達成に向けチームで遂行するというワンチーム精神に似たところに魅かれました。学生時代にチームスポーツを経験しており、それが看護師の仕事と通ずるものがあったのかと思います。

看護師資格取得後、市内の病院で経験を積み現在、市立病院手術室で勤務しています。毎日の手術はもちろんですが緊急手術や難しい手術では、患者さんに安心、安全な手術を提供するために、麻酔科医や執刀医、病棟看護師、臨床工学師などとチームを組み連携を図り手術をしています。リスクの高い困難な症例をチームが連携し合い安全に終えた時、より一層この仕事の達成感を感じます。患者さんが危機的な状況下や、今後の人生に影響が出るかもしれない状況下で看護師として安心、安全な手術を提供できる事で日々充実感を持ち勤務しています。当院手術室は42名、その内男性看護師は7名と少数です。まだまだ女性看護師が多い職場ですが看護師に興味のある方、特にこの文を目にした男性の方は是非、看護師を目指し資格を取りませんか。そして手術室のチームの一員になりませんか。手術室以外の部署にも日々やりがいと充実感を持ち勤務している男性看護師はいます。いつの日か一緒に看護師として働けることを心待ちにしています。

手術室勤務 J・W

中学生からの夢



私は中学生の頃から看護師になりたいという夢がありました。それはすぐには叶わず、訪問介護の仕事をしていました。高齢者や障がいのある方が自宅や施設で生活する中で困っていることを手伝う仕事です。そこで出会った利用者の方々は、困ることがあったとしても自分の住み慣れた場所で生活し、自分らしさを大切に生活していることが印象に残りました。前職をきっかけに現在病気で怪我で入院生活を強いられている患者さんが、住み慣れた場所へ回復して戻ることを支える看護師になりたいと改めて強く決意しました。そして現在看護師として外科病棟で働いています。患者さんのその人らしさを理解し、個々に合った退院先をチームで考えています。私はまだまだ退院支援を行う上で力不足を感じている日々ですが、一番側で患者さんや家族と関われる看護師になることができ、責任を感じると共にとてもやりがいを感じています。 病棟勤務 A・K



東日本大震災をきっかけに



私は看護師になる前、十二年間金融機関に務めていました。看護師になると背中を押した決定的な出来事は東日本大震災です。仕事時の地震でテレビを付け迫り来る津波を中継でみていました。その時テレビをただ観て、何もできない自分にもどかしさを感じ苦痛を伴っている人の役に立ちたいと思いました。看護師になり麻痺がある患者さんに水が飲みたいと言われ、飲水の手伝いをしました。患者さんはとても喜び私に対して後光が差していると言いました。私の行った小さなことはその患者さんにとってはとても大きなことであったのだと思います。どんな職業でも大変なことはありますが、自分の行動で人の命を救うことにつながり、さらに人生を支えることできる看護師はとても素敵な職業であり誇りに感じています。看護師になって丸7年になりますが、患者さんが回復していく姿をみて元気をもらいとても充実した日々を過ごしています。

病棟勤務 Y・M



コミュニケーションを大切に

私は今年で9年目になります。以前は介護福祉士として勤務し、看護師を目指しました。働きつつ看護師になれるため、翌年に自衛隊に入隊しました。山で訓練し、ほふく前進をしながら、集団生活を過ごしました。その後、帰釧し、学生時代はバイトを3つ掛け持ちして過ごしました。この社会経験でさまざまな職種の方と関わり、患者さんやご家族との関わり幅と人脈と知識が広がり看護に活用されていると働く中で実感しています。実際に患者さん・ご家族は今後に漠然とした不安を抱え、焦燥感を感じている方が多いです。そこで、今まで培ったコミュニケーション技術を最大限生かし、不安の軽減を目的に患者様の不明点の抽出を行いつつ、話をしました。すると、笑顔で「おかげで安心した。君はこの仕事に向いているね。」と言って頂いたことがありました。

患者さんの気持ちが辛く、苦しい時に寄り添うことは簡単なようで難しい技術と考えています。よって患者さんの個性に合わせ、意図的に関わることは私にとって大切にしたい看護の一つです。看護師になった時期は遅く遠回りしましたが、患者さんからのその言葉一つで人生に無駄なことはなかったと考えています。

病棟勤務 I・N



理学療法士のスキルを活用

看護師に転職して5年が過ぎました。それまで理学療法士として市内の病院等で働いてきました。私が感じる看護師の魅力は、患者さんの生活を一番身近でみていけることと、手術直後や重症の患者さんへのケアができること、終末期まで患者さんにじっくり関わることができることです。命に直接かわる場面も多いため、緊急時や看護師として判断が求められるときは緊張しますが、その分やりがいも感じています。

脳梗塞で麻痺が生じベッド上の生活となってしまった患者さんを、久しぶりにトイレでの排泄にチャレンジして感謝していただいたときに、介助量は大きいけれどチャレンジできてよかったと充実感を感じました。これからもADL向上や、肺理学療法・早期離床といった、今まで実践してきた技術や知識を今後も活用していければと考えています。

病棟勤務 A・N



人の役に立ちたい・・・

私は看護師になる前、飲食店の仕事をしていました。祖父が入院した時、私も人の役に立つ仕事がしたいと考え、看護師になりたいと思いました。看護師になり、悩むことや忙しさに大変だと感じることはありますが、それ以上に日々の仕事を通して看護師としての魅力を感じる事がたくさんあります。以前、大きい手術後に離床がなかなか進まず、入院生活も長くなり、先の見えない不安に流涙されていた患者さんがいました。リハビリを頑張り、退院する前日に「もう退院することはできないと思った。看護師さんには本当に助けてもらった。ありがとう。」と話していた患者さんの笑顔を見て、辛かった時を見ている分、本当に嬉しく思いました。患者さんの元気になる姿を一番近くで見ることができ、患者さんと一緒に喜びを共有することができるのは看護師の大きな魅力だと思います。患者さんやご家族に寄り添った看護ができるように今後も励んでいきたいです。

病棟勤務 M・T